

奄美諸島喜界島におけるキマユムシクイ・ メボソムシクイの冬季捕獲記録*

濱 尾 章 二**

Records of the Yellow-browed Leaf Warbler *Phylloscopus inornatus*
and the Arctic Warbler *P. borealis* in Winter from Kikaijima
Island in Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan

Shoji Hamao**

はじめに

日本鳥学会 (2000) によると、キマユムシクイ *Phylloscopus inornatus* は奄美諸島では与論島で旅鳥として記録があるのみである。また、メボソムシクイ *P. borealis* は日本では冬季の記録がない。今回、奄美諸島喜界島において冬季、ウグイス *Cettia diphone* の捕獲調査中に両種を捕獲したので報告する。

稿を進めるに先立ち、メボソムシクイの同定について助言頂いた山階鳥類研究所の齋藤武馬氏、奄美諸島のムシクイ類の記録について教示頂いた奄美野鳥の会の鳥飼久裕氏、ムシクイ類の識別・渡来に関する情報を下さった渡部良樹氏、そして調査に便宜を与えて下さった喜界町役場に謝意を表する。

キマユムシクイ

2008年12月1日10:50、鹿児島県奄美諸島の喜界島中里地区(北緯28°18', 東経129°55'; 標高25m)においてキマユムシクイ1個体を捕獲・放鳥した。捕獲場所は、樹高4-5mのギンネム *Leucaena leucocephala* のやや疎らな林で、林内には野生化した牧草ネピアグラス *Pennisetum purpureum* が生えていた。

捕獲した個体は小型のムシクイ類で、上面は鮮やかなオリーブ色、下面は白色であった。淡黄色の眉斑があり、過眼線は暗いオリーブ褐色であった。灰色みのある淡色の細い頭中央線が認められたが、

*この調査は、国立科学博物館総合研究「変動する環境下における生物多様性の成立とその変遷」の中の「南西諸島固有の鳥類個体群の成立・維持機構に関する生態学的研究」の一環として行われた。

**国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science, Tokyo. Email: hamao@kahaku.go.jp

周囲とのコントラストは弱いものであった。大雨覆・中雨覆は暗褐色で先端は白く、太い明瞭な二本の翼帯となっていた。また、三列風切の羽縁も白色であった。附蹠は肉色で指は黄色であった。上嘴は黒く、下嘴は基部が黄色、先端が黒色であった。計測値は表1の通りであった。なお、計測中に「チューイー」「ピューイー」などと聞こえる尻上がり（だんだん周波数が高くなる）声で鳴いた。

捕獲した個体をキマユムシクイと同定した規準は以下の通りである。まず、キマユムシクイ同様翼帯をもつヤナギムシクイ *P. trochiloides* (亜種 *viridanus*, *plumbeitarsus* とともに) は、翼長が大きく (54-67mm) 翼式が異なること (Svensson 1992), 三列風切羽縁が白色ではないことから除外される (Parmenter & Byers 1991)。捕獲個体の体サイズが合致し、三列風切羽縁と翼帯に淡色部をもつのはキマユムシクイ・カラフトムシクイ *P. proregulus*・バフマユムシクイ *P. humei* の3種である。バフマユムシクイはキマユムシクイと同種とされる場合もある (Parmenter & Byers 1991) が、本論文では Svensson (1992), del Hoyo *et al.* (2006) にしたがって別種として扱う。カラフトムシクイは腰が黄色あるいは白色であり、明瞭な頭中央線がある点 (Parmenter & Byers 1991, del Hoyo *et al.* 2006) で、捕獲個体と異なる。類似点が多いバフマユムシクイは捕獲個体よりも全体に灰色みがある。また、眉がバフ色であることや翼帯・三列風切羽縁の白色部の幅が狭いことも捕獲個体と異なる (Parmenter & Byers 1991, del Hoyo *et al.* 2006)。以上のことから、捕獲個体はキマユムシクイと同定された。

捕獲個体は翼長・尾長ともキマユムシクイのオスの範囲を下回っており、メスの範囲に入っていた (清棲 1965a, Svensson 1992)。このためメスである可能性が高い。成幼の別については不明であった。

捕獲個体と同一個体かどうかは不明であるが、捕獲前の 10:30 頃、捕獲場所の周辺でキマユムシクイと思われる個体を観察した。その個体は、ギンネムの樹冠を枝移りしながら時々「チューイー」「ピューイー」などと聞こえる声で鳴き、三列風切羽縁が淡色で2本の明瞭な翼帯があった。

キマユムシクイはロシアから中国東北部で繁殖し、インド東北部から東南アジア・台湾で越冬する (del Hoyo *et al.* 2006)。日本鳥学会 (2000) によると、日本では数少ない旅鳥として北海道・本州・四国・九州の各地、及びトカラ列島・奄美諸島 (与論島) で記録があり、琉球諸島では越冬する個体もいる (ただしこの記載はバフマユムシクイとキマユムシクイを同種としている可能性がある)。これにしたがうと、今回の記録は奄美諸島における与論島以外の初記録となる。一方、奄美野鳥の会 (1997) によると、「奄美群島では渡りの時期に少数が定期的に通過している」とある。しかし、引用文献や同定に関する記述はない。いずれにしても、今回の記録は奄美諸島初の冬季の記録であり、越冬の可能性を示すものである。本種は国内では琉球諸島でしか越冬記録がないが、奄美諸島でもある程度の数が越冬している可能性がある (鳥飼久裕 (私信) によると奄美大島では確実に越冬しているという)。今回調査を行った場所ではウグイスやメジロ *Zosterops japonicus* が多く、それらはギンネムの樹冠で嘴を枝に触れさせ、採食をしているようであった。キマユムシクイは「灌木の枝葉間をくぐって」「枝渡りしつつ餌を捜す」 (清棲 1965a) とあり、この種がギンネム林で採食し越冬している可能性が考えられる。

メボソムシクイ

2008年11月28日15:40, 鹿児島県奄美諸島の喜界島中里地区(北緯28°18', 東経129°55'; 標高25m)においてメボソムシクイ1個体を捕獲・放鳥した。捕獲場所は、樹高3-4mの密に茂った低木林(やぶ)の間の小道であった。

捕獲した個体は中型ないし大型のムシクイ類で、上面は灰色みのあるオリーブ褐色であった。胸は黄色みがあるやや汚れた白色、腹から下尾筒は白色であった。汚白色の眉斑があり、それは眼の先で途切れ、嘴の付け根までは届いていなかった。過眼線は暗い褐色で上面の他の部分よりも黒色みが強かった。頭中央線はなかった。大雨覆の羽縁はわずかに白色部があり、翼帯を形成していた。附蹠・指の上面は肉色を帯びた褐色、指の下面は黄色であった。嘴は黒く、下嘴は基部が黄色、先端が黒色であった。計測値は表1の通りであった。初列風切第1羽(最も外側)は初列雨覆よりもやや長かった。

捕獲した個体をメボソムシクイと同定した規準は以下の通りである。エゾムシクイ *P. borealoides* は捕獲個体と異なり、翼帯がない(del Hoyo et al. 2006)。また、足が肉色であり(清棲 1965a)、翼式も異なる(清棲 1965b, p.34-35の図よりエゾムシクイは4>5>3>6>7>2>8>9...:一部の羽は描かれておらず不明)。ヤナギムシクイ *P. trochiloides* (亜種 *viridanus*, *plumbeitarsus* とともに)は翼帯が捕獲した個体より明瞭であり、眉斑は嘴の付け根まで伸びる(del Hoyo et al. 2006)。センダイムシクイ *P. coronatus* は上面に緑色みが強く、胸から腹に黄色みはない。また、頭中央線がある(WBSJ 1982)。イイジマムシクイ *P. ijimae* も上面緑色みが強く、胸から腹に黄色みはない(WBSJ 1982)。また、イイジマムシクイは下尾筒が黄色みを帯びる(<http://f40.aaa.livedoor.jp/~phyllon/warbler/warbler-table.html>; 濱尾の三宅島における観察でも同様)が捕獲個体では白色であった。さらに、センダイムシクイの翼式は4>3>5>6>2>7...、イイジマムシクイの翼式は4>3>5>2>6>7...であり(清棲 1965b)、捕獲した個体と異なる。

これらのことから、捕獲個体は特徴が矛盾なく一致するメボソムシクイと同定された。翼式も清棲(1965b)やSvensson(1992)の4=3>5>2>6>...とほぼ一致した(表1)。捕獲個体は翼長・尾長・附蹠長が亜種メボソムシクイ *P. b. xanthodryas* の計測値を下回っていた(清棲 1965a)。翼長は体サイズが小さい亜種コメボソムシクイ *P. b. borealis* をも下回っていた(オス:62-69mm, メス:60-65mm, 清棲 1965aによる; 表1)。体重もコメボソムシクイの8-15g(清棲 1965a)を下回った(表1)。また、捕獲個体は緑色みに乏しく灰色を帯びていた。これらのサイズや羽色の特徴から、捕獲個体は亜種メボソムシクイ *P. b. xanthodryas* ではなく、亜種コメボソムシクイ *P. b. borealis* かアメリカコムシクイと呼ばれる亜種 *P. b. kennicotti* であると思われる(清棲 1965a, Svensson 1992)。亜種 *kennicotti* はコメボソムシクイよりも嘴が細く、下面が黄色を帯びるというが、その程度は不明で、捕獲個体がこの亜種であるか否かを判断することはできなかった。いずれの亜種であるにせよ、捕獲個体はサイズが小さいことからメスである可能性が高い。成幼の別については不明であった。

亜種コメボソムシクイは北部ヨーロッパからシベリア、そしてモンゴル・中国東北部の広範囲で繁殖し、東南アジア・中国南東部・台湾で越冬する(del Hoyo et al. 2006)。亜種 *kennicotti* はアラスカ西部で繁殖し、フィリピン・インドネシアで越冬する(del Hoyo et al. 2006)。しかし、亜種メボソムシクイを含まないいずれの亜種も国内での越冬記録はない(日本鳥学会 2000)。五百沢(2004)は、

表 1. 喜界島で捕獲されたムシクイ 2 種の計測値.

	キマユムシクイ <i>Phylloscopus inornatus</i>	メボソムシクイ <i>Phylloscopus borealis</i>
自然翼長	52.1 mm	58.0 mm
翼差*	10.2 mm	13.0 mm
尾長	37.8 mm	41.6 mm
全嘴峰長	12.6 mm	13.7 mm
嘴峰長**	5.7 mm	7.2 mm
嘴峰幅**	2.6 mm	3.4 mm
嘴峰高**	2.2 mm	2.5 mm
跗蹠長	17.3 mm	18.8 mm
体重	6.2 g	7.5 g
翼式***	4>5>3>6>7>2>8>9>10>1 (右) 4>5=3>6>7>2>8>9>10>1 (左)	4>3>5>2>6>7>8>9>10>1 (右) (左, 計測せず)

* 翼を閉じた状態での初列風切と次列風切の先端部の差

** 鼻孔先端部における値

*** 最も外側の初列風列羽を 1 として記述

一部の個体は南西諸島で越冬するとしているが、引用文献は不明である。これらの文献情報からすると、今回の記録は、種メボソムシクイの国内初の確実な越冬記録ということになる。しかし、五百沢 (2004) をはじめ南西諸島で冬季に種メボソムシクイを観察したという情報は多く (例えば, <http://f40.aaa.livedoor.jp/~phyllon/index.html> や齋藤武馬 私信), 本種が南西諸島で越冬している可能性は十分に考えられる。今後、観察記録が引用可能な形で公表されることを期待したい。

引用文献

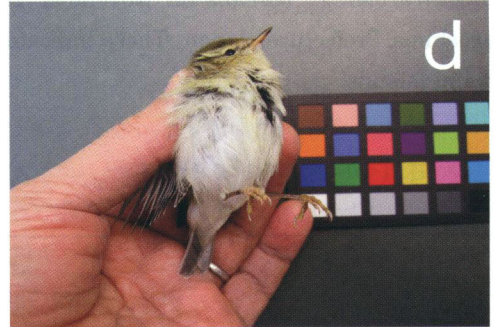
- 奄美野鳥の会. 1997. 図鑑奄美の野鳥. 288pp. 奄美野鳥の会, 名瀬.
- del Hoyo, J., A. Elliott & D. Christie. (eds.) 2006. Handbook of the Birds of the World, Volume 11. Old World Flycatchers to Old World Warblers. 798pp. Lynx Edicions, Barcelona.
- 五百沢日丸. 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, 増補改訂版. 383pp. 文一総合出版, 東京.
- 清棲幸保. 1965a. 増補新訂版日本鳥類大図鑑 I. 444pp. 講談社, 東京.
- 清棲幸保. 1965b. 増補新訂版日本鳥類大図鑑 III. 236pp. 講談社, 東京.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録, 改訂第 6 版. 345pp. 日本鳥学会, 帯広.
- Parmenter, T. & C. Byers. 1991. A Guide to the Warblers of the Western Palaearctic. 143pp. Bruce Coleman Books, Uxbridge.

Svensson, L. 1992. Identification Guide to European Passerines. 368pp. British Trust for Ornithology, Norfolk.

WBSJ (Wild Bird Society of Japan). 1982. A Field Guide to the Birds of Japan. 336pp. Wild Bird Society of Japan, Tokyo.

Summary

I captured the Yellow-browed Leaf Warbler *Phylloscopus inornatus* on December 1, 2008, and the Arctic Warbler *P. borealis* on November 28, 2008, on Kikaijima Island in Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. These indicate the possibility that the Warblers are wintering in Amami Islands.



付図1. 喜界島で捕獲されたキマユムシクイ *Phylloscopus inornatus*.
全身・嘴 (a), 上面 (b), 頭中央線 (c), 下面・足 (d) の特徴を示す。



付図2. 喜界島で捕獲されたメボソムシクイ *Phylloscopus borealis*.
全身・足 (a), 頭部・嘴 (b), 上面 (c), 下面 (d) の特徴を示す。